

## **P 14** アトピー性皮膚炎患者の血清脂肪酸組成と伝統的和食の推奨 - n-3/n-6 バランスについて -

○小林裕美,水野信之,寺前浩之,忽那晴央,上奥敏司,斧山淳子,山中一星,石名航,平田央,石井正光(大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学)  
七枝美香,平井和子(同生活科学研究科健康栄養学)

[緒言]炎症の促進因子の1つとして食事中的のn-3系多価不飽和脂肪酸(n-3 PUFA)の減少とn-6系多価不飽和脂肪酸(n-6 PUFA)の過剰が報告され、近年の難治アトピー性皮膚炎(AD)の増加の一因として注目されている。我々は、AD治療に漢方療法をとりいれ効果を上げてきたが、漢方における食事指導である伝統的和食の推奨は、n-3/n-6比の改善につながると考えられる。そこで、AD患者における血清脂肪酸組成の実態と漢方療法における食事指導を行ない経過中の組成の増減について調査した。

[対象]1999~2001年に演者の外来を受診したAD患者のうち同意の得られた112名(男性37名、女性75名)。

[方法]患者血清中脂肪酸をキャピラリーガスクロマトグラフにより定量した。また、臨床症状の重症度を6段階で評価し、標準的治療に加え、バランスのとれた和食中心の食事指導を行い、経時的に検討した。

[結果]治療前の血清n-3 PUFAのエイコサペンタエン酸(EPA)とn-6 PUFAのアラキドン酸(AA)の比(EPA/AA比)が0.3以上の症例においては、重症度とn-3/n-6比の相関は認められなかったが、0.3未満の群(全症例の70%)では、重症度とn-3/n-6比に負の相関がみられ、症状の改善とともにn-3 PUFAの増加を認めた。

[考察]ADの重症化の一因に血清脂肪酸組成におけるn-3/n-6比の低下が関与する例が存在することが示唆された。

[総括]ADの悪化因子は種々あるが、食の欧米化とともに低下したn-3/n-6比が一因となる例においては、伝統的和食を推奨する漢方の食事指導は有用と考えられる。